



活動地区について

豊田市東部の根羽川、名倉川、段戸川の3つの河川は一級河川である矢作川と合流して三河湾に流れ込んでいる。また、3河川の上流にはダムはなく、水生生物の生息環境も安定している。

名倉川環境保全ネットワークは前述した3河川の流域7haに協定面積を設定しており、流域にはアユやアマゴといった清流の魚が生息しており、かつてはその豊富な資源量により都市部からの遊漁者や漁業者の活気で溢れていた。しかし、近年は淡水有用魚の資源量の減少が続き、遊漁者数は大きく減少していた。



は活動組織のリーダーから各参加団体の役員を通して情報を伝達している。草刈りにより川底まで光が入るようになり、アユの餌となる藻類が増えたと考えられ、アユの資源量が増加している。

河川清掃は主に釣り人団体によって実施されている。この団体は都市部の40代を中心とした35名程が構成員となっており、一回当たり約10名が参加して河川清掃や釣り人への指導を実施している。河川清掃により年間80kg程度のゴミが回収されている。



学習会は地域の小学生を主な対象として実施されており、開催の情報は周辺住民の交流の場である稲武交流館にて情報発信している。学習会は年に3回程度実施し、一回当たり40人以上の児童とその保護者が参加して川の環境や生息する魚についての理解を深めている。学習会には県の水産職員が参加して子供たちに説明する事もある。また、併せて稚アユの放流体験も実施することで、子供たちの記憶に強く残る活動となっている。

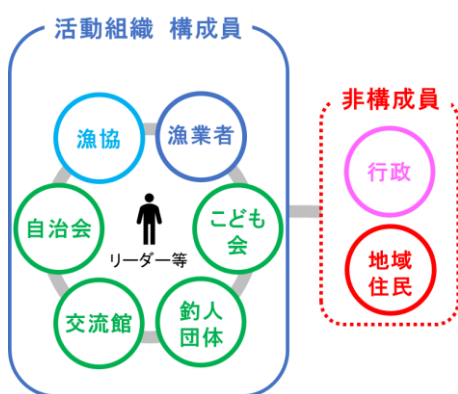


組織の設立及び活動方針

現活動組織の発足以前である平成17年から名倉川漁業協同組合の組合員を中心に活動していたが、高齢化と組合員数減少が進行し、十分な活動が出来なくなっていた。

その様な状況の中、平成28年度に水産多面的機能発揮対策事業へ参加し、本活動組織を発足した。その際に、漁協組合員に加えて、明和こども会、稲武町自治区・連谷自治区・大野瀬町自治区の3つの自治区、稲武交流館（青少年育成部会）が構成員として加わっている。さらに令和2年度からの名古屋市等都市部釣り愛好者団体の参加は、活動人員としてだけでなく、都市部との交流という意味でも組織の活動の幅を広げている。

本活動組織は、「アユ・アマゴの生息環境を改善して資源量を増やし、交流の場としての川の機能を活かしたい」との目標を持ち活動している。



活動内容と連携の成果

(1) 活動内容

主な活動内容は、河川敷の草刈り、河川清掃、学習会であり、アユ・アマゴの漁場区域で実施されている。草刈りは、日光を川底まで届けてアユの餌となる藻類の生育を促進するとともに、川岸までのアクセスを良好にしている。河川清掃は、周辺の衛生環境と景観を改善している。主に小学生を対象とした学習会は、地元の河川やアユへの親しみを抱かせることに繋がっている。

河川敷の草刈りは漁協の組合員と各自治区が実施しており、活動の際

(2) 連携の成果

草刈りや清掃により流域環境が整えられ、アユやアマゴの資源量が回復しつつあるだけでなく、組織の活動に参加する釣り人が増え情報が拡散されたこともあり、訪れる遊漁者は増加している（平成30年2,656人→令和3年3,648人）。特にアマゴの遊漁者数が大きく増加しており、平成30年（1,857人）と比べ令和3年は1.6倍以上（3,044人）となっている。また、多様な方々が活動に参加し改めて川の魅力を知ったことで、川で遊ぶ地域住民や都市部からの釣り人が増えており、交流の場として川が活用されていることが感じられる。

運営面では、各団体を交えた活動を継続することで連携がスムーズになっており、活動拡大が期待できる状況になってきた。

課題と今後の方針

現状では各活動において成果が見られ参加者からの評判も良いため、参加者を増やし活動の幅を広げるべきとの意見もある。ただし、活動のすそ野を広げるためには安全管理の更なる徹底が必要である。また、高齢化が進む地域住民だけでは活動増強が難しい状況で、都市部からの釣り人等のボランティアを募りたい。釣り人との関係強化は都市部との地域交流の輪を広げ、今後の活動の好循環に繋がると期待される。

加えて、活動情報をインターネット上で発信していく必要性も感じているが、コンピュータやIT分野に詳しい人が少なく苦慮している。今後は構成員や連携団体と連携しつつ情報を発信していきたい。一方で、地域住民への更なる情報発信の必要性を感じている。地域住民の中には行政主体で実施されている活動と勘違いされている方も多く、地域住民が主体であり広く参加者を募っていることを周知すれば、参加者の増加に繋がる可能性がある。